

第10回 大宮グランドセントラルステーション推進会議 議事録

開催日時：令和2年7月1日（水）15:00～17:00

開催場所：ソニックシティ 第2・第3展示場

出席者

氏名	選出区分	備考
岸井 隆幸	学識経験者	日本大学 理工学部土木工学科 特任教授
久保田 尚	学識経験者	埼玉大学 大学院理工学研究科 教授
沖田 定男	地元まちづくり団体	大宮駅東口駅前南地区まちづくり推進協議会 会長
栗原 俊明	地元まちづくり団体	大宮駅東口西地区まちづくり推進協議会 会長
町田 宏遠	地元まちづくり団体	大宮駅前大門町一丁目中地区市街地再開発準備組合 理事長
齋藤 巖	地元まちづくり団体	大宮駅東口北地区市街地再開発準備組合 理事長
齊藤 誠	鉄道事業者	東日本旅客鉄道株式会社 総合企画本部投資計画部 担当部長
横尾 武士	鉄道事業者	東日本旅客鉄道株式会社 大宮支社 総務部長 (代理：企画室長 金森 勇樹)
吉野 利哉	鉄道事業者	東武鉄道株式会社 常務執行役員 鉄道事業本部長
渡邊 哲	鉄道事業者	埼玉新都市交通株式会社 代表取締役常務
石井 貴司	関係行政機関	埼玉県 企画財政部 地域経営局長
長谷川 俊正	関係行政機関	さいたま市 都市局長
町田 孝良	関係行政機関	さいたま市 大宮区長
工藤 和美	デザイナー	一般社団法人アーバンデザインセンター大宮 センター長 (代理：副センター長 藤村 籠至)
奥田 謁夫	オブザーバー	国土交通省 都市局 都市安全課 都市安全対策官
佐藤 学	オブザーバー	国土交通省 関東地方整備局 建政部 都市調整官
梅津 武弘	オブザーバー	独立行政法人 都市再生機構 東日本都市再生本部 事業企画部 担当部長
緑川 一郎	オブザーバー	一般財団法人民間都市開発推進機構 まちづくり支援部 第二課長

次第

1. 開 会

2. 議 題

<会 長> 議事次第に従い進める。第 9 回推進会議の振り返りをした後、部会での検討内容について事務局から説明をお願いします。

<事 務 局> 資料 1（第 9 回推進会議の振り返りと部会等での検討内容）について説明。

<会 長> 本日、窪田亜矢委員が体調不良で欠席しているが、久保田尚委員が参加している。部会長の立場から補足すべきところがあればお願いしたい。

<久保田委員> 資料 1 の P. 4、P. 5 に記載のとおり、3 月 2 日に開催された合同部会では、推進会議にどのように部会の意見を提示するかを議論した。年度のまとめである GCS プラン(案)にどの段階のものを出すかというところで様々な意見があった。まだ様々な事柄が決まっていない段階のため、絵や文言を決定事項のように提示することは好ましくないという意見もある一方、すべて決まっていなるとすると、各街区の具体的な計画が始まらないため、現時点の議論の到達点はきちんと提示すべきという意見もあった。それらの意見を踏まえ、今日の資料である GCS プラン(案)を更新して頂いている。

<会 長> これまでの経過の振り返りをしていただいた。GCS プラン（案）及び今後の検討体制の説明をいただいてから、意見交換を行いたい。

<事 務 局> 資料 2（(仮称) GCS プラン（案））、資料 3（今後の検討体制について）、資料 4（GCS 関連 2020 年度総括ロードマップ（案））について説明。

<会 長> 資料 4 のロードマップでは、本会議で GCS プラン（案）を議論した後、パブリック・コメントを行う予定となっている。同時に、関係者を分けたプロジェクトチームにて詳細な検討を行い、更新した GCS プランを、来年 1 月の第 11 回 GCS 推進会議にて公表する予定である。そこまでの組織図が資料 3 の P. 2 であり、今年度末にプランが正式に公表された後の来年度の組織図が P. 3 である。来年度の組織体制は、次回推進会議にて見直してもよいと思うが、現段階での全体スケジュールイメージはこのようである。

資料 2 の P. 3、GCS プラン全体の構成を確認したい。まず初めに GCS プランの方向性として、そもそも大宮の戦略をどうするのかということや、それらを

意識しながら描く大宮の将来像等が書かれている。

次に、その実現のために必要な都市空間形成の目標という 6 つの目標で何をしたらいいのかという整理があり、これが細かな表となり、P. 31、P. 32 に整備の指針や方策について文言で書かれてあり、実際にどういう空間を作っていくかのイメージ図がある。

最後に、個別の整備計画として、基盤系の空間構成についての将来目指していくべきことが書かれている。ただし、基盤系の議論はすべてが決まっているというのではなく、P. 62 下段に書かれているように、現時点での到達点が赤枠で書かれており、これから検討を深めていく必要がある内容は青枠で書かれている。

以上のような全体構成の GCS プランについて、議論していただく。部会長からコメントをいただいた後、皆様からご意見をいただきたい。

<事務局> 窪田亜矢委員から 2 点ご意見を頂戴しているので、事務局から代読させていただく。

1 点目、今回のまとめはこれまで議論してきたものを整理しているものであって、内容の議論や中身の実装化においては引き続き検討を継続する必要がある。より地域に密着した体制を整えながら密な議論を行うことが本質的に重要である。手間はかかるが、手間をかけて育てていかなければ、今回のような大規模な整備事業はうまくいかない。

2 点目、市民との関係を構築していくことが重要である。まちづくり推進部会長として、委員の意見や、そこに代表される土地や建物を所有している方々の意見をまとめることをこれまで重視してきた。これまでワークショップ等でも市民の意見を聞いてきているが、今後どのような市民参画があるのか、市民との対話についてもじっくり考えていく必要がある。道路や広場、景観のあり方については市民も決める権利を有している。

<久保田委員> P. 62 下段に記載のとおり、今まで議論して積み上げてきた到達点と、今後の検討課題を枠付きで記載するフォーマットを作っていたことが非常に大きなポイントである。

P. 63 以降、到達点と検討課題をそれぞれ見ていただくと、例えば P. 63 では、駅前広場の基本的な形について、到達点が書かれてある。これらについて、お気づきの点があればご指摘いただきたい。

基盤整備推進部会では、2 車線の中山道がどうなってしまうのか等、社会基盤

に対する心配の声が何度もあがっていた。それについて P. 73 で、長期的には中山道の地下バイパス化と大宮岩槻線 4 車線化を目指すということが書かれている。

一方、タイムスケジュールとして短・中期的なことを考えると、交通需要マネジメントの実施についても書かれており、P. 77 では駐車場のやりくりを中心として交通需要マネジメントを行っていくとしている。おそらく短期的にも中山道を酷く渋滞させないために非常に重要なことなので、今日改めて確認させていただきたい。

<会 長> GCS プラン(案)についてご意見をいただきたい。決まったもの、終わったものとせず、現在の GCS プラン(案)をベースにさらに検討し、広く市民の方のご意見を受け止めながら進んでいきたい。また、記載のない部分についても意見をいただきたい。

オブザーバー及びコーディネーターに意見をいただきたい。

<藤村委員> 今後の検討体制について進展はあったものの、今後の大宮の一番の課題として、各事業の調整が挙げられる。整備段階では様々な事業が進んでいく際に、それらのコーディネートの方法や、コーディネートからエリアマネジメントにつながっていく体制の構築が大きな課題ではないか。今後、プラン策定後はビジョン懇談会とまちづくり調整会議という体制になるが、事業が進展するにつれて、専門的な議論を集中的に行う場所やエリアマネジメントを含んだ費用負担の調整が必要になる。これらについての議論を始めていきたい。

<会 長> 資料 3 の P. 2、プロジェクトチームのメンバーの検討はこれからか。

<事務局> 各プロジェクトチームを記載しているが、メンバーは検討中である。

<会 長> それぞれのプロジェクトチームが単独で並行して動いていくことになっているが、それぞれ関連があるものは、連携した調整が必要になる。最終的な調整の場としてのデザイン調整 WG で、多数の意見をまとめると混乱を招くため、途中で何度か連携した議論をしていただくことが必要になる。

<オブザーバー> 国土交通省としては、地域のまちづくりを応援させて頂くことが役割であり、他都市の事例のご紹介や、まちづくりを進める上でのご質問など、どのようなことでもご支援したい。

コロナウイルスの影響が生じている中ではあるが、大宮地域はなお地域の拠点性が高く、大宮のまちを良くしていく動きは引き続き求められている。

これから具体的に計画を進めるに当たって、コロナウイルスの影響についても地域住民の方々はお悩みかもしれないが、1 つずつ議論を積み上げることが重要である。

まちづくりは、様々な方がお互いに関連するものであり、一人ではできない。

これまで以上に、各事業者や様々な方々が風通しをよく、意見交換しながら進めていき、地域住民、行政、鉄道事業者が一体となって議論を進められれば良いと期待している。

<会長> 世間ではアフターコロナの話が盛んであるが、GCS プラン(案)の中でもセーフティバックアップシティとの記載がある。大宮の防災力は大変力強いことから、東日本の核として日本のバックアップ拠点にもなることもできると良いという議論がある。しかし一方で、国全体の話として、東京一極集中が時代に適しているのかという議論もある。この点について地方整備局や本省でお話しできることはないか。

<奥田オブザーバー> アフターコロナのまちづくりに関して、国土交通省においては、現在、様々な有識者からのヒアリング等を行っている。現時点で確定的なことは申せないが、これまでのご意見では、公共空間の整備の重要性は引き続き求められるであろうことや、新たなまちづくりにおいてコロナだからこそ重要視すべき点があるというような議論を進めている。コロナだから考慮すべき点もあるだろうが、把握できていない部分も多く、現在コロナについての確定した対応について申し上げるものはなく、議論している最中である。ただ、現在までのまちづくりを全否定するようなことではないだろう。

<会長> 在宅勤務等が行われて、ウェブ会議等に対応できることが明らかになり、環境が整っていることは悪いことではない。鉄道のピークカット、平準化により快適に通勤できるという利点もある。大宮がこのような状況で北関東の需要を受け止める都市として基盤を整備していくことは大いに可能性がある。

<佐藤オブザーバー> 本日初めて大宮駅に降りたが、駅の構内は横浜駅と似ており、東口から商店街へ歩いたところ、新宿や川崎と似た活気のある賑やかさ感じた。首都圏広域地方計画において目指している、大宮駅の機能向上、交通機関の結節機能の強化の実現に向け、皆様と一緒に推進していきたい。

＜榊オバザー＞ この GCS プラン最終案は、今後のまちづくりの方向性とそのための具体的な計画がまとめられ、素晴らしい計画になったと思う。今後はこのプランを実現していくという段階になるが、駅周辺は多くの関係者がいるため、実現に向かうにつれて、利害調整が必要となるだろう。その調整は難しい事もあるかもしれないが、その際には 2 章に記されたまちづくりの方向性や大宮らしさといった GCS の原点に立ち戻って、乗り越えていかれることを期待する。

また、東口では既に各街区で協議会や準備組合等も結成され、まちづくりの機運が高まっている。まちづくりの計画段階でこうした地元の機運が高まっているということは他の自治体ではあまりないのではないか。その点では、こうした地元にも既にある思いを市のイニシアチブによってうまく実現して頂くことを期待する。

＜綴川オバザー＞ 我々は、民間のまちづくりを金融面から支援するという役割であるが、大きなプロジェクトへの資金提供の支援以外にも、小規模なまちづくりや空間づくりへの支援も行っているので、大小さまざまな取り組みに参画させていただき、支援をさせていただきたい。

＜会長＞ これから事業の話になるとオブザーバーには事業制度の使用等様々な知恵をお借りする機会がある。よろしくお願ひしたい。
それでは地元の方から意見をいただきたい。

＜齋藤(巖)委員＞ 我々も準備組合が立ち上がって相当時間が経った中で個別の検討を進めている。各街区の計画は大変重要だが、大宮のまちとして、鉄道事業者、公共施設、交通、道路含めて全体で計画を考えていくべきである。一方で各街区の意思決定もあるため難しい部分はあるが、広域地方計画、東日本の玄関という位置づけになっていることを踏まえ、大宮を 1 つの大きなまちとして捉えて進めていくべきである。

＜会長＞ この地域でまちづくりを考えている事業者と一緒に議論することが大変重要で、この機会を大事にしていかなければならない。

＜町田委員＞ 我々は 6 月 18 日に事業協力者が決まり、まちづくりのイメージを考えていく段階にあるが、GCS プラン(案)として、駅前広場や地下のイメージができていない。市との調整の仕方について伺いたい。

＜事務局＞ 市としては駅前広場プロジェクトチームや駐車場プロジェクトチーム等を市だけでなく、鉄道事業者、バス事業者等の協力をいただきなが

ら、開発街区の進め方と調整しながら積極的に進めていきたいので、よろしくお願ひしたい。プロジェクトチームを設立するのは、関係者間の調整の深度化も進めていきたいという意味である。

<会長> 事業協力者が決まると、具体的に開発のエリアの方向性を、まち全体として調整していく必要がある。そのためには手順や関係する地区との連携、共通すべき点、地区で考える点等一つ一つこなしていく必要がある。駐車場や駅前広場等プロジェクトチームでは、できる限り事業協力者の方にも知恵を出していただき、可能性のあることについて開発の工夫等、意見交換を多くしていただき、より良い案にしていきたい。

<栗原委員> 西地区はコロナウイルスの影響で協議会を開催することができず、準備組合設立には至っていない。

今回のコロナウイルスの影響を我々は重視しており、従来考えていた内容で西地区としてこのまま進めていいのかという意見が出た。漠然とした不安を抱えており、悩んでいる。

今後の進め方での不安点だが、コロナウイルスの影響がある状況で、スケジュール通りに進まなくなった時の対応が心配である。西地区の計画もこれからのGCSプランも将来を担う大きな計画である。コロナウイルスにより先行きが見えないとは言え、計画としては進めていかなければならないので、スケジュールについても検討していただきたい。

<会長> コロナウイルスの影響を受けているのは大宮だけではない。他都市でも準備組合ができていても理事会ができないといった状況にある。社会もようやく動き出してはいるものの、ウィズコロナの段階は不透明である。しかし、いつかはコロナウイルスが収束すると信じて、その時のためにも1年間かけて計画を進めていきたい。

<沖田委員> 我々も3月31日に準備組合を設立する予定だったが、コロナウイルスの影響で未だ設立できていない状況である。9月末から10月初旬には準備組合を設立したい。

南地区で計画を進める場合には地下車路ネットワーク等と関係するため、全体で行う部分の検討を先行して、早急にブラッシュアップしていただきたい。GCSプラン(案)の中に、現状の都市計画を破棄するという記載をしてほしい。平成28年から議論している中で、GCSを推進するに当たって現状の都市計画は破棄されるものと認識していたので、そのような旨の記載を入れていた

きたい。

<事務局> 駅前広場等を含めての話だと思うが、記載等は即答できないので、別途お話しさせていただきたい。

<会長> 通常、都市計画決定は破棄ではなく変更するということになる。それでは、交通関係者から意見をいただきたい。

<齊藤(誠)委員> 当社も新東西通路の整備、地域の発展、駅周辺のまちづくりへの貢献という点で協力させていただきたい。

<金森委員> 当社としては、GCS プラン(案)の重要なプログラムである新東西通路の計画に伴い、駅を利用させていただきやすく変えていく必要があると認識している。駅の中だけでなく、公共的空間を含むまちとの連続性について十分留意しながら、まちとのつながりを確保できるように検討していきたい。今後の検討体制の中で、我々交通事業者も各プロジェクトに参加させていただきたいと思うが、プロジェクトチームとして各論に特化して検討を深度化していく中で、前提が異ならないよう全体論を示していただきたい。全体論を外さない中で駅とまちの連続性をしっかり確保しながらプランの検討が進捗するように協力していきたい。

<吉野委員> 我々としても GCS プランに協力していきたい。特に 2 面 3 線化や駅の南進も概ね決定しており、非常に議論が進んでいる印象を持っている。1 度決めたことに対しても、様々な応用を考えながら協力して一緒に進めていきたい。

<会長> 新しい東西の横断の仕方について関係者で一定の合意ができているのは素晴らしいことであるので、着実に進められるように頑張らせていただきたい。

<渡邊委員> GCS プラン(案)の P. 70、新東西通路の整備によってニューシャトルの改札口へのアクセス性も高まるため、当社も新東西通路についてのプロジェクトチームにメンバーとして参画させていただき、駅の利便性の向上と活気のあるまちづくりに協力させていただきたい。

<会長> よろしくお願ひしたい。プロジェクトチームでは様々な方が関係するため整理が必要かもしれないが、皆に積極的な意見をいただけるように工夫していただきたい。

<石井委員> 新東西通路については非常に重要な整備になると思っている。GCS プラン(案)には、乗換需要に対応しての必要幅員等を決めているとの記

載があり、スムーズな乗り換えが大きく期待されると思う。一方、中央連絡通路との役割分担の視点も重要ではないか。乗り換えだけでなく、大宮を目的とする方々や、バスで周辺に行かれる方々が新東西通路を使用する場合、新東西通路から中央連絡通路の方に出られる方もいると思う。ここをつなぐ南北通路の位置や、東西通路での分散割合等を、東西通路プロジェクトチームで議論いただき、大宮の活性化につながることを期待したい。

<会長> 県からも支援をいただければと思う。

各委員から発言をいただいたが、久保田委員から全体を通して意見を願っていた。

<久保田委員> 皆様のご発言を伺っていて、GCSプラン(案)に記載されているGCSプランの到達点と今後の検討課題を整理するということが今日合意できたことは、大きな進捗であると思う。

今後のことについてGCSプラン(案)P.80のスケジュールイメージでは、GCSプラン策定や、その先の都市計画決定等に必要の手続きが矢印で書いてあるが、今後これらのオーソライズをどのような進捗で行うのかが明確になっていくと良いと思う。公共空間の都市計画決定に向けた動きと、各街区の検討が同時に進んでいかなければならないため、街区の方も気にされているのではないかと。細かい時間軸が見えるようにして、1月下旬のGCSプランで明示していただきたい。都市計画決定や駐車場は条例の変更等が必要であるため、スケジュールが明確になるといい。

<会長> 各部会で議論いただいて一定の合意点と、さらなる検討を重ねる点とで整理して、基盤系の空間が不透明ではあるが少しずつ進んでいる。事業協力者まで決まった地区、あるいは準備組合が設立している地区があるため、道路や駅前広場等公共側の論理だけでなく、これからのGCSプランを実現するための各開発街区のイメージと空間が一体となっていかなければならない。建築的な設えと土木的な公共空間の設えは分けて検討できない。実際に開発の検討をしている関係者とフラットな場で議論していかなければ手間もかかるうえ、良い知恵も出ないため、プロジェクトチームではフラットに様々な人の意見が聞けるようにしていただきたい。

いくつかの街区に分かれて影響が出てきそうな問題はこれから調整があると思うが、具体的な事業手法はオブザーバーの知恵を借りながら、市で考えたものを、皆様にご覧いただき意見交換することが大事である。

新東西通路について関係する事業者が明確なため、実現していくために具体的な検討作業が必要である。工事の順序やタイミング等、具体化をするために試行錯誤してもう一度計画としてオーソライズするというステップが必要になるため、関係者は先んじて様々なことを検討いただきたい。計画や全体のスケジュールを共有していただき、大宮としてステップバイステップで良くなっていくことが伝わるようにする必要がある。最初のスタートは重要である。皆が大宮は変わると思っていただけるようにこれから 1 年間かけてその手順を作りたい。

<栗原委員> GCS プラン(案)P. 80 の図では、GCS プラン策定の次に大宮グランドセントラルステーション推進会議と合同部会が記載されているが、資料 3 の説明によると名前を変更するとあった。この記載は変わるのか。

<事務局> 本日も了承いただけたら、P. 80 の記載を修正したい。

<会長> 合意が得られればこれをベースにして P. 80 を書き換える。

タイトルには「大宮」を入れるのか。また、パブリック・コメント時には表紙も工夫していただきたいがいかがか。

<事務局> 大宮を入れないとどこの駅か不明なため、「大宮」の記載を入れたい。パブリック・コメントに向けて、表紙も工夫したい。

<久保田委員> 資料 3 の P. 3 は GCS プラン策定後についてである。GCS 推進会議は大宮ビジョン懇談会になって、提言する先が各部会となっているが、この部会というのはどこか。

<事務局> 資料 3 の P. 3 だが、GCS 推進会議はプラン策定後、大宮ビジョン懇談会に、各部会・デザイン調整 WG はまちづくり調整会議という組織に変えたいと考えている。アフターコロナ等について GCS の推進に関する提言をいただき、それを受けて地元の方や部会の構成員の方が入るまちづくり調整部会で議論していただき、さらに下部のプロジェクトチームとも連携しながら進めてまいりたい。

<久保田委員> 承知した。

推進会議の名称が大宮ビジョン懇談会に変わることにについて、事前に事務局に伺った。名称を変える理由について伺うと、現在の GCS プランの範囲では収まらないところもあるうえに、少し視野を広げたいということであった。現在の範囲からより視野を広げると、周辺では様々な大プロジェクトが動く可能性もあると思っている。それらを全て大宮ビジョン懇談会でまとめて議

論するということによろしいか。

<事務局> 以前、大宮駅周辺地域戦略ビジョンを検討したことも認識したうえでこういった会議名にさせていただいている。ターミナル街区だけではなく、周辺部分についても検討していく必要があると考えているため、範囲を少し広げて考えていきたい。久保田委員にご指摘いただいたように限度の問題や、構成する各関係者をどこまで広げるかについては、引き続き議論を行い、様々な方と相談しながら GCS プラン策定後も検討していきたい。

<会長> 久保田委員の指摘は、様々な物事が周りで動いていく中で、それがバラバラにならないように大きな議論をする場所が必要だということである。GCS プランの駅前のハード整備を中心にした議論から拡大して、ソフト整備や様々なプロジェクトを連動させるという意味においては広いプラットフォームを作るということであれば理解できると思う。1月の次回推進会議で、必要があればもう一度具体的に議論していただく。全体のプロジェクトをコントロールする意味において、GCS プランは大変重要なため、引き続きご提案いただきたい。

その他、意見がなければ事務局にお返りする。

3. その他

<事務局> 事務局より2点事務連絡がある。

1点目、次回の推進会議は令和3年1月の開催を考えている。委員の皆様には改めて通知を送らせていただく。

2点目、会議録については内容を委員の皆様を確認いただいた後、ホームページにて公開したいと考えている。よろしくお願ひしたい。

4. 閉会

以上